

# KSKQ あかねニュース No. 73

川西市障害者共働作業所あかね  
〒666-0017 川西市火打1-5-19

Tel&Fax 072-755-4101  
ホームページ [akanesan.net](http://akanesan.net)  
E-mail: [rasseyai-akane@deluxe.ocn.ne.jp](mailto:rasseyai-akane@deluxe.ocn.ne.jp)

一九九一年九月三日 第三種郵便物承認 毎月(1・2・3・4・5・6・7・8の日) 発行 頒価 定価 一〇〇円

## イタリア映画 「人生ここにあり」を観ました。

「いい映画ですよ」と薦められました。日ごろから尊敬しているかたが太鼓判を捺すのですから、必ずいい映画に違いない、と迷わずすぐに観にいきました。

もちろんいい映画だったのですが、それ以上に「すごいなあ」と、その内容にびっくりしてしまいました。

舞台は一九八〇年代のイタリア・ミラノです。労働組合活動を過激にやりすぎたために配転を命じられた、熱血漢ネッロに用意された次の職場(ポスト)は、精神病患者十一人が暮らす施設(「協同組合180」と呼ばれている)の経営責任者でした。精神病とか患者に関する専門知識など全く持ち合わせていないネッ

ロは、十一人の精神障害者と「普通の人間」として向き合い、彼らとともに「ニュービジネス」を立ち上げようと努めます。もちろん、ことはそう簡単に運ばず、すったもんだがあるのですが、ふとしたはずみの「瓢箪からコマ」みたいな出来事がきっかけで、彼らのビジネスが脚光を浴び、みるみるうちに成長の軌道に乗り始めるのです。

じつは私もこの映画で初めて知ったのですが、イタリアという国には、「精神患者のための病院」は無いのだそうです。もちろん刑事犯の精神障害者を収容する施設はありますが、そうでない場合は、最長でも二週間の療養生活を送ったのちは強制的に社会に戻

されます。

彼らの行き先は自宅であったり施設であったりですが、いずれにしてもそこは「社会」、一般人たちと交わって暮らすことになるのです。もつとも、そうは云っても施設は施設ですから、管理人のほかに監督医師が居て、入所(通所)者に睨みをきかせます。

精神安定のための薬も大量に飲ませる。ですから彼らは気力喪失状態のようになり、そうなる事で「問題行動」に走る芽を摘む、という形でなんとか、施設や入所者の「安定」が保たれていたのです。ネッロはこれを切り崩しにかかりました。監督医師を「皆の総意」でクビにし、皆に投与されていた薬の量を大胆に減らしたの

です。気力が甦った彼らはビジネスの成功を前にして活気づき、職場のモラルも一段と向上するのですが…。

障害者である事から本質的に脱却しきれない彼らは、無念にも問題を起こしてしまい、やがてはメンバーの一人の自殺へと進みます。その責任を被って職を辞すネット：…それでも、ネットを募う皆は実力行使で彼らを呼び戻し、施設のビジネスはふたたび拡大成長路線を歩みだします。

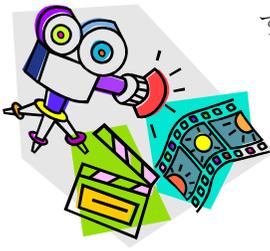
「S I P U O F A R E !」（やればできるさ！）を合言葉に。

冒頭に申し上げた、この映画の「すごい」は、ストーリーの大半が実話だという所にあります。モデルとなったイタリアの北東部にある「ノンチェッコ協同組合」の探訪記事がプログラムに載っていました。組合員は六百人ほどで、その30%が精神障害を持つ人たち。皆あかるくのびのびと働いていて、誰が障害者で誰がそうでないのか判らないが、取材しているうちにそんなことはどうでも良くなってきたとルポライターは書いています。

ネットのモデルとなった組合のリーダー、ルドルフォ・ジョルジュティさんも登場します。

「やはりイタリア人ならではの発想だ。陽気で能天気の彼らだからこそ、このようないややかたが容認できるのだ。」などと簡単に納得してしまっただけではありません。

「世界に冠たる精神医療先進国」イタリアでも、今日の制度に至るまでの長い「産みの苦しみ」の歴史があったのです。ゴリツィア精神病院長だったフランコ・バザリアによる熱心で粘り強い提案（「薬と拘束」でなく「自由」の中にこそ本当の「精神の治療」がある、という）が実を結び、一九七八年に精神保健法いわゆる「バザリア法」が制定されるまで、二十年以上もかかったそうです。



そして、一九九八年には、イタリアは（犯罪者の病院を除く）全ての精神病院をなくしました。まさに、画期的というか、信じがたいことです。私も、映画を見た何人かのかたと、感想意見を交換したのですが、ほとんど、いや、全てのかたがこの映画を日本の実態に重ね合わせ、日本の現状を嘆いておられました。

「日本にこのような制度を導入すること自体が、百年河清を待つような話だ。」

「いわゆる臭いものに蓋をする」発想で、問題行動を起こす人を囲い込んでしまう日本のやり方を変えていくには、根底からの意識改革が必要だ。…。

ごもつともです。でも、そこまでの感想だけで終わらせてしまっただけは、せっかくなので、映画を見た甲斐がありません。

「では、日本はいつまでも現状のままでもいいのか？ 具体的にどうすればいいのか？」という議論に踏み込んでいきたいところです。

特に、障害者福祉行政に直接携わっておられる皆様と、個人的に「本音の」意見交換をさせていただきたいものです。

私たち「あかね」が支援しているのは知的障害者たちです。「あかね」が設立以来一貫して掲げてきた理念は「障害者を抱え込まず、出来るだけ地域に出していく」とを通じて、障害のある人もない人も共に(さりげなく)暮らす社会を作ることでありました。

「共働作業所あかね」の「作業」の主たる中身が「閉じこもって、物を作る」ことではなく、弁当配達であり行商でありイベント出店でありカレンダー販売(街頭・戸別)であるのは、この理念に裏打ちされたものです。その意味で私たちは、この映画に謳われた考えかたに深く共感するし、すでにこの考え方を実践してさえいると思うのですが、とかく「危害を加えられそうないメージで見られやすい」とされる精神障害者と、そうでない知的障害者とのあいだには、地域社会の受けとめかたの違いなど、実現に向けて難易度の差が大きいので

でしょう：そう考えると、なおのこと「イタリア」の凄さ、懐の深さ」をあらためて感じずにはいられません。

人間の誰もが心の中に潜在的に持っている「狂気」の問題について、否応なしに向き合った111分でした。家庭で職場で、大いに議論談論の輪が広がりますように。

(芳川 雅美)



### ★ゆめ風基金への募金活動 お礼とご報告★

毎週月・水・金曜日の午前11時から13時まで能勢電鉄平野駅の改札口付近で弁当とケーキ販売をしております。その機会にゆめ風基金の募金箱を置いております。

皆様の暖かいご協力の結果、7月から9月末までに20,773円をゆめ風基金に振込みいたしました。ありがとうございました。

まだまだ継続した支援が必要です。皆様、今後ともよろしくおねがいいたします。

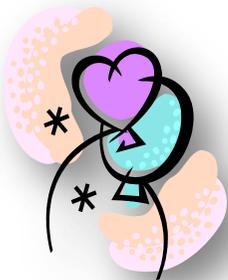
# 「生きろい」の意味」を見つめて

東日本大震災から6カ月以上が過ぎ、まだ癒えぬ心と悲しい心を引きずりながら生きようと必死で努力されている方々のニュースが毎日放送されています。阪神大震災を経験した私達も年月が流れて日常の生活が戻ってきています。朝、目がさめて一日の暮らしが始まる中で、家族と顔を合わせ、食事をし、お茶を飲み、お風呂に入る……。多少の違いはあったとしても、極々当たり前の暮らしが流れていく中で、怒ったり、笑ったり、泣いたり、嘆いたり、さびしくなったり、苦しくなったり、日常の人間模様をくり返しています。当たり前前の日常が失われた時、家族も友人もお金も家も健康も若さも失った時、その時はじめてすべてを失い、そこから人々が立ちあがろうとする時、人が人として生きるこの意味が見えてくるのではないのでしょうか。

東北からの発信は私達にそれを伝えて下さっているように思います。人は誰でも一度や二度生きることが苦しくなるようなどん底を経験します。そこから立ち上がることが出来るのは「人のやさしさ」に出会うことではないでしょうか。私のお粗末な人生七十二年の中で、それを想う時、涙があふれてきます。それは、障害児と云う子どもをもってどう育てたら良いのか悩みとまどっている時、「こんな子はなあ、家の宝物やでえ、大事に育てなあかん」、人生の先輩とも云うべきおばあさんの言葉がありました。又、その子が小学校へ入学が拒否され、四面楚歌の状態の時、「こんな子どもほど、みんなの中で守っていかねあかん」と応援して下さいました先生方、あかねはうす設立の後、いろいろな問題が起こって、「もう、やめてしま

たい！」と悩んだ時、「やめたら子ども達はどうなるのん？、頑張って続けなあかんやろっ」と叱咤激励され時、そして、つい四年前新聞に書きたてられて落ち込んでいた時、「こんなことで負けたらあかんで！みんなついているから気にせんとときや」などなど……。今、思い返しても「人のやさしさ」に励まされてこの人生を生きのびる事ができたと思っています。

東日本大震災を受けた多くの人々の苦しみは計り知れないどん底だと思ふ時、私達の受けた多くの人々の「やさしさ」をどんな形でお届けできるのか、わからないけれど、なんとかしてこの心を行動に移さなければ……。自分への問いでもあります。



「やさしさ」とは何か、自分にそれはあるのか、人へのやさしさ、自分へのやさしさ、昨日、落合恵子さんのお話を聞く機会があり、その時の言葉が頭から離れませんでした。「知らなかった、知らされなかった、知ろうとしなかった」という言葉…。

誰でも、究極の場に立たされた時、知らなかった、知らされなかったことを知る、そして、知ろうとする。そこに人の愛と欲が見えてくる、愛のある方へ動くのか、欲望の方へ動くのか、それが世の常です。



障害を持った人たちをこの世の中の「光」と受けとめ、それを支えようとする社会にするか、排除してはいけないと少数だった人々が受け入れて、その人達の「やさしさ」に出会って救われた自分だった。福島の人々の苦しみを思う時、自分のできる行動は？ 一人のできる力は小さく

とも、それをつなぐ努力をしよう！そのことのむずかしさ、むなしさもみえてくるけれど、それに立ち向かう努力こそが今の自分ではないだろうか。

そして、笑って暮らせる世の中をめざしましょう。

(富田 啓子)

### おもいつけないで…

いかがお過ごしですか？今年も夏恒例、各地域での夏祭りも無事に終わりました。幸い今年には雨の影響もなく、皆さんのサポートのお陰で販売も順調に。時の過ぎるのは早いもので冬恒例の「あかねオリジナルカレンダー」も仕上がり間近です。



年末に向けてまだまだ、イベント盛りだくさんですが、あかねらしく！「勢いで頑張るで〜」、「なんとかなるっ」（なんとかなんるではダメなだけど…）と笑顔で元気で年末まで突っ走って行こうと気持ち新たに。

このように通信を通して、皆さんにお伝えさせて頂いている、毎年恒例のあかね行事、地域イベントなどなど、何十年と継続してこれた事は当たり前のように、実はとても大変なことであると考えさせられます。あかねは障害があつても無くても、人と人が社会生活の中で同じ土俵に立ち、暮らしていく事を模索し続けている、共に働く「職場」であり「生活」の場。課題はまだまだ山積みで模索し続けなければ意味をなさない場でもあります。人と人との関係においてどのような立場であろうと「対等」であることを基本に据えながら「あかね」らしくあり続けたいと。今、学校など教育の場に於いては「特別支援」など一見もつともそうで実の所、「何それっ？」って言葉がよく聞かれます。

「障害があるから個別に特別教育を」、「金銭的弱者にはそれなりに個別に対応を」など、聞こえはいいが要するに語弊があるかもしれませんが、「差別化」している気がしてなりません。

共に学び、共に働き、共に暮らす。だからお互いに支え合っているのでは。今年もあかねを応援して下さいだった方が何名か亡くなりました。

それぞれ方が長いあかねとの関わりの中で様々な思いを寄せて頂いた事をこれからの糧に、世の中の流れとは逆に向かっているのかもしれませんが「あかねらしさ」を大切に続けていきたいと思えます。

(渡辺 誠)

## 行商にまいります!

共働作業所あかねでは、お弁当配達、容器回収、洗いなどを終えた後、班に分かれて皆で行商にでる。作業所を立ち上げた当初から、あかねでは障害のある方たちが内職など施設内で作業するよりも、外に

出て、地域の方たちと出来るだけ話し、働く場をみていただくという行商を主力の仕事に位置付けた。行商先は、学校や幼稚園、保育園の先生方や高齢者施設、生命保険会社などのご協力で、毎日何軒かお伺いし、販売させていただいている。皆、自分の卒業した学校にいくときには予定表を見て、朝から楽しみにしている。また、先生方も、一人ひとりをよく覚えてくださって、いつもお話をしながら、買い物をしてくださっている。小中学生のころお世話になった先生に声をかけてもらい、嬉しくてたまらなくて、帰りの車で「震えるほど、うれしい! やったー。」という人もいてその様子を見るのが私も嬉しい。

時々、職員室で大声を出してしまったり、「帰らない」と座りこんでしまったりすることがあって、ご迷惑をおかけする事もあります。ですが、いつも暖かい目で見守ってください、本当にありがたいです。



また、川西市内の個人のお宅にも定期的にお伺いしております。

もう、長年お世話になっている方がほとんどですが、近くに通ったときに突然お伺いしてもいつも暖かくお迎えいただき、ご近所の方にまで声をかけていただくこともあり、皆様のお心に支えられてお仕事させていただいていると実感します。

この行商は、日々の貴重な収入源となっている。作業所の障害者スタッフのお給料は、毎日出勤しても二万三千元。彼らが受け取っている障害基礎年金と合わせても最低賃金にも程遠い。作業所の中では多い方かもしれないが、地域で当たり前暮らしてゆくにはまだまだで経済的自立は難しい。より速く、より多く、効率的なものが評価される世の中で、障害のある人が利益を生むのが難しい。けれども一人ひとり、一生懸命、荷物を運んだり、電卓で計算したり、お釣りをお渡ししたり、お買い上いただいたものを袋に入れたり、おすすめ商品の説明をしたりと出来ることをして、皆様の元へ商品をお届けします。

あかねでは、行商を通じて、よりたくさんの方たちに私達のことを知って頂きたいし、また、障害者スタッフの更なる賃金アップを目標にしております。

行商商品は、北海道から取り寄せる新鮮なお魚や、手作りのケーキやお惣菜、お菓子やおせんべい、出し昆布や海苔、そのほかスタッフが各地でみつけたおいしいものを車にいっぱい積んで出かけております。川西市内、猪名川町、伊丹市、宝塚の一部地域で行商にお伺いさせていただけるお宅や施設などをいつでも探しております。ご協力いただけるお宅や施設の方は、是非、作業所までご連絡ください。新しい出会いを楽しみにお待ちしております。

(岡田 小月)



「おつかれさま」という言葉

あかねに新米職員としてお世話になって、早くも2カ月がたとうとしています。夏祭りや、行商、個人宅への販売など、今まで経験のない仕事に携わり、気がつけば1日が、すぎていくような日々の中、ふと思う事がありました。その日、夕方に作業所横手のフェンス沿いで洗濯をしていた私は、後ろから「さよならっ」と元気よく声をかけられ、振り向くと、仕事帰りのメンバーが一人、笑ってこちらを見ていました。私は、「今日も暑かったなあ、気をつけて帰ってや」と声をかけ、しばらく彼女の帰っていく後姿を見つめていたのです。ふと、彼女の今日一日の行動が浮かびました。猛暑の中、「暑い、汗かいたわ」と辛そうにいいながら、それでもお弁当の配達や洗い物等、一つずつ仕事をこなし、お昼前には仲間内でケンカをして気分を悪くし、でもお昼をすぎれば、また、そのケンカ相手と一緒に笑顔で、作業所を出ていった姿を思い出し、無意識に「おつかれ

さま」と叫んでいました。思えば「おつかれさま」という言葉を、私は会社に勤めて十九年、毎日のように挨拶同様に使っていました。その当時、仕事が終わって帰る時も、誰と目をあわす事もなく、誰に向かって発するわけでもなく、他の人の今日一日の仕事や、辛かった事、楽しかった事を思い浮かべる事もなく、事務的な「おつかれさま」でその日を終えていたように思います。それが、あかねにお世話になるようになり、私の中で「その程度の意味の言葉」が、「その日を一生懸命やり遂げた人に対する尊敬を込めた大事な言葉」にかわりました。これからもこんなふうに、私の中でいろいろな事が、意味をもったすばらしい事にかわっていくのだらうと、少し楽しみな気持ちになりました。真つ赤な夕日に向かって、今日一日をやり遂げ、どうとうと帰っていく彼女の後姿は、頼もしくあり、少し羨ましくも思いますが……これから、精一杯、心からの「おつかれさま」を叫んでいこうと思えます。

(竹内 佳子)

**多数の賛助会費の更新・新規**  
**ありがとうございます。**

昨年に引き続き、賛助会員の更新ならびに新規での加入のお願いをしたところ、たくさんの方々から早速のお振込や、ご持参いただき、心より感謝申し上げます。私どもの賛助会員については、今回は7月を更  
 新ならびに新規加入の時期とさせていただきます  
 でしたが、もとより、締切などというものは設定しておりません。

今後とも、引き続きよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

**夏祭り、ご協力ありがとうございます**

ありがとうございました。

今年も、夏祭りの出店にたくさんのお手伝いの方に参加していただき、ありがとうございます  
 ございました。今回は、お天気にも恵まれ、皆さんのご協力のもと、なんとか乗り切る事ができました。また、来年もよろしくお願  
 いします。

## ●あかねの掲示板●

### ふれあい広場

●開催場所：あかねはうす

・10月23日(日) 13:00開演

「ミア・ルーチェ」による、マンドリン&ギター演奏会

芸術の秋・・・懐かしいメロディーをみなさん一緒に楽しみましょう♪

・11月13日(日)・27日(日)・・・内容はあかねまでお問い合わせください!

★ワンコイン(500円)で手作りランチ・ケーキ・コーヒーをご用意しております。



### あかね行事予定

- ・10月22日(土)・・・ふれあいバザール <アステ川西>
- ・10月29日(土)・・・のせでんレールウェイフェスティバル <能勢電鉄平野車庫>
- ・11月 3日(祝)・・・あかねまつり <共働作業所あかね>
- ・11月 5日(土)・・・輝く人間フェア <総合センター>
- ・11月12日(土)・・・日生バザー <日生中央駅広場>
- ・11月20日(日)・・・第30回川西一庫ダム周遊マラソン大会 <一庫ダム>

### 【編集後記】

夏祭りも終わり、ホッとしたのもつかのま……。九月から年末にかけて、いろいろな行事が目白おしのあかねです。開催行事の中で一番の目玉は、十一月三日(祝)開催予定の「あかねまつり」です。今年も、たくさんのイベントを用意して皆さんをお待ちしています。ぜひ、お越し下さい。また、お手伝いボランティアさんも大募集中です。ご協力の程、よろしくお願ひします。

竹内

